

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年10月31日
タイトル	水土里レポートが繋ぐ土地改良区の輪！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年10月24日（月）山口県の下関土地改良区の中泉文三理事長をはじめ、役員、総代37名、職員3名の40名が水土里ネット福山へ視察研修に来てくださいました。

まず水土里ネット福山の土地改良区会館事務所2階大会議室において研修を行いました。水土里ネット福山からは、杉原郁充常務理事より「土地改良区の運営」「施設の維持管理方法」について説明し、水土里レポーターとして「21世紀土地改良区創造運動の取組」について説明しました。

中泉理事長をはじめ、役員職員のみなさまから多くのご質問・ご意見をいただき「行政との関わり」「経常費賦課金」「農業用水路の管理」「女性理事・総代」など多岐にわたり活発な意見交換をすることができました。



みなさん熱心に説明を聞いてくださいました！

多くの課題について意見交換しました！

土地改良施設研修として「七社頭首工」を視察することとなりバスで移動するため一緒にバスに乗り込み事務所から約10キロメートル、七社用水を溯りながら、除塵機や射流分水などの土地改良施設や収穫直前のくわい畑を説明しながら七社頭首工へ案内しました。

特に福山市の特産物のくわいは、一粒のくわいから地上1メートル、地下1メートルに成長し30から50個の実をつけることや植付けや収穫の苦勞、収益の高いことなどを話しました。

七社頭首工では、頭首工のすぐそばまで近づいていただき、施設管理担当の小坂主任が施設説明をしながら見学しました。見事な秋晴れで芦田川の川幅一杯の堰に流れる川面がとてもきれいでした。



施設の説明も熱心に聞いておられました！

転倒堰を勢いよく越流。間近で見学！



芦田川左岸から見た七社頭首工

七社頭首工は疏水百選に選ばれた芦田川用水の取水施設で、一級河川芦田川の河口より上流約15キロメートルに位置し、三川ダムの放流水を取水して福山市の市街地に配水しています。受益地の主な農作物は水稲ですが、福山市の特産物である「くわい」の収穫のため、10月から12月は「くわい収穫期」として水利権があります。

水土里ネット福山は21世紀土地改良区創造運動の一環として水土里レポートを投稿しており、このレポートをきっかけに下関土地改良区が関心を持ってくださり、視察研修という形で交流する機会に恵まれました。

今後も視察研修を積極的に受け入れ「水土里ネット」の輪が広がっていくことを願っております。